第３回“京都をつなぐ無形文化遺産”「地蔵盆」審査会次第

日　時：平成２６年１１月１０日（月）
　　１４：３０～１６：３０
場　所：壬生寺　会議室

１　開会

２　議事
「京の地蔵盆－地域と世代をつなぐまちの伝統行事」（最終案）について

３　閉会

【配布資料】
①次　第
②名　簿
③配席図
④資　料
資　料１　市民意見募集の結果について
資　料２　「京の地蔵盆－地域と世代をつなぐまちの伝統行事」（最終案）
資　料３　今後の予定について
参考資料　第２回審査会摘録

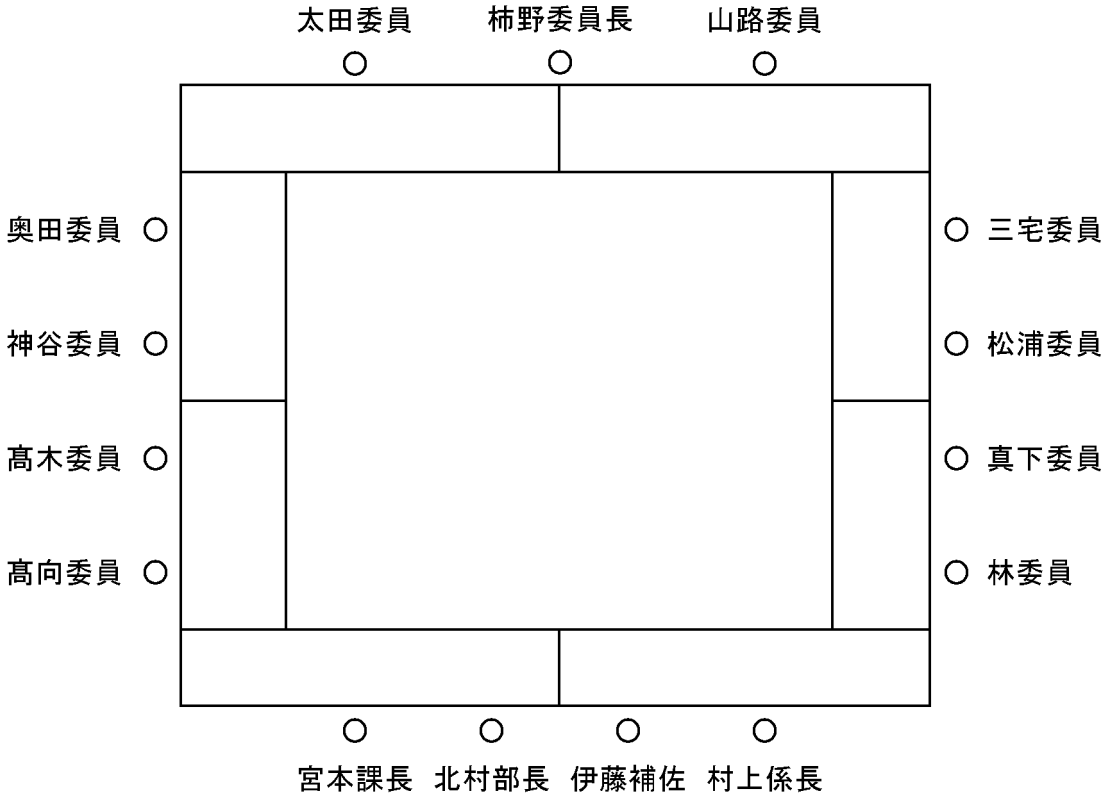
“京都をつなぐ無形文化遺産”「地蔵盆」審査会委員名簿

（委員長及び副委員長以外の委員は五十音順，敬称略）

	氏　名	肩　書	出欠
委員長	柿野　欽吾	京都産業大学理事長	○
副委員長	熊倉　功夫	静岡文化芸術大学学長	
委員	太田　　達	弘道館館主，同志社大学文化情報学部特別講師	○
委員	奥田　末子	京都市地域女性会連合会常任委員	○
委員	神谷　　潔	写真家	○
委員	髙木　良枝	市民公募委員	○
委員	髙向　正和	市民公募委員	○
委員	林　　則子	市民公募委員	○
委員	真下　美弥子	京都精華大学非常勤講師	○
委員	松浦　俊海	壬生寺貫主	○
委員	三宅　宏美	市民公募委員	○
委員	宗田　好史	京都府立大学教授	
委員	山路　興造	京都市文化財保護審議会委員	○

第3回“京都をつなぐ無形文化遺産”「地蔵盆」審査会配席図

日時：平成26年11月10日（月）14:30～16:30
場所：壬生寺　会議室



資料１

“京都をつなぐ無形文化遺産”
「京の地蔵盆－地域と世代をつなぐまちの伝統行事」素案に対する市民意見募集の結果について

１　市民意見募集の概要

⑴　募集期間

平成２６年８月２９日（金）から９月２８日（日）まで

⑵　御意見数

応募者数：２０９人，意見数：５０８件

⑶　御意見をいただいた方の属性

ア　居住地（人）

京都市	京都市以外		不明	合計
	京都市に通勤･通学	その他		
１８９	１０	４	６	２０９

イ　年齢（人）

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代～	不明	合計
２６	３９	４６	３７	３６	１９	６	２０９

ウ　性別（人）

男性	女性	不明	合計
９３	１１１	５	２０９

⑷　御意見の内訳

ア　「地蔵盆」について……５０８件

・　「京の地蔵盆」素案について……２１０件

・　「地蔵盆」を将来に引き継いでいくためのアイデアについて……１４０件

・　将来に残していきたい，また，子供たちに人気のある「地蔵盆」行事について……１５８件

イ　平成２６年度における「地蔵盆」の実施状況について

・　行った　　→　７３％

・　行わなかった　→　１４％

・　わからない　　→　１３％

２　主な御意見

⑴「京の地蔵盆」素案について（２１０件）

御意見の趣旨	意見数
＜肯定的意見＞ ・地域コミュニティの活性化に役立っている町内会の行事であり，選定に賛成である。（３０） ・「地蔵盆」をこれからも引き継いでいくためには，選定することはいいことだと思う。（２７） ・京都の伝統行事であり，未来に残していきたい文化遺産として選定にふさわしい。（２４） ・子どもにとって楽しいイベントであり，選定されることで次の世代に残ってほしい。（２１） ・「地蔵盆」は京都だけのものではないが，京都の夏の風物詩として受け継がれていくことを願う。（１５） ・子どもと大人の交流など，町内会の住民のつながりを図る行事として，安心安全のまちづくりにも有益である。（１２） ・「地蔵盆」の内容について分かりやすくまとめられている。（９） ・選定することで，「地蔵盆」が盛んになり，それが，地域の活性化につながることを期待する。（５） ・「地蔵盆」に参加したことがないので，参加してみたい。（４）	１４７
＜課題を提起する意見＞ ・若い世代等を対象とした新しい行事を取り入れるなど，ライフスタイル等の変化に応じた取組が求められている。（１３） ・「地蔵盆」を広く周知し，継承につなげてほしい。（１２） ・少子高齢化などにより，「地蔵盆」が減少していることは残念である。（１０） ・「地蔵盆」を運営する役員の負担が大きい。（７） ・子育て支援策など，「地蔵盆」を継承させていく対策を検討していく必要がある。（６） ・選定するのが遅い。（２）	５０
＜否定的意見＞ ・選定する必要はない。（５） ・宗教色のある行事であり，選定するのは望ましくない。（３） ・既に形骸化しており，選定にふさわしくない。（２） ・馴染みのない行事である。（２） ・具体的に何を選定するのか明確にすべきである。	１３

⑵「地蔵盆」を将来に引き継いでいくためのアイデアについて（１４０件）

御意見の趣旨	意見数
＜実施主体に関する御意見＞ ・若い世代も加わり，より多くの住民が「地蔵盆」の運営に参画する。（１６） ・町内会単位でなく，複数の町内会の合同や学区単位など，「地蔵盆」の開催形態を地域の実情に応じて考える。（９） ・日頃から町内会の住民同士のつながりを持つ。（４） ・「地蔵盆」に積極的に取り組んでいる町内会を表彰，或いはモデル町内会に指定する。（３） ・子どもも「地蔵盆」の運営に参画させる。（３） ・「地蔵盆」を盛り上げる雰囲気をつくる。（２） ・大人のモチベーションを維持させる。（２） ・学校行事に取り入れる。（２）	４１
＜行事内容に関する御意見＞ ・大人も子どもも楽しめる，魅力あるイベントを実施する。（２６） ・学生などの若い世代や地域外の子どもも気軽に参加できるものにする。（１３） ・「地蔵盆」の内容をわかりやすくまとめた冊子などを配る。（１０） ・「お地蔵さん」や「地蔵盆」の意義を子どもたちに伝える。（１０） ・福引の景品は，誰にも喜ばれるものにする。（３） ・役員の負担が大きくならないよう，行事を簡略化する。（３） ・各町内会の「地蔵盆」の行事内容について情報交換を図る。（２） ・お菓子など「地蔵盆」に必要なものを安く購入できるよう支援する。（２）	６９
＜その他＞ ・チラシやポスター，ソーシャルネットワークサービスなどにより，積極的に「地蔵盆」の開催を周知する。（１３） ・「お地蔵さん」マップの作成や「地蔵盆」の開催状況など，実態調査を進める。（５） ・毎年継続して「地蔵盆」を開催する。（３） ・町内会への加入を勧める。（３） ・少子化対策を進める。（２） ・同じ日に一斉に開催する。（２） ・盆休みの期間に開催する。 ・開催日数を２日間にする。	３０

⑶将来に残していきたい，また，子供たちに人気のある「地蔵盆」行事について

行事名	意見数
福引（畚（ふご）おろし含む）	３５
数珠回し	１７
お菓子配り	１７
ビンゴゲーム	8
盆踊り	7
花火	6
スイカ割り	6
屋台	5
紙芝居	4
金魚すくい	4
灯籠（行燈）作り	4
昔の遊び（メンコ，コマ，けん玉）	3
僧侶の読経	2
ヨーヨー釣り	2
マジックショー	2
的当て	2
映画鑑賞	2
その他	３２
合計	１５８

資料２

京都をつなぐ無形文化遺産

「京　の　地　蔵　盆」

～地域と世代をつなぐまちの伝統行事～

（最終案）

１　選定に当たって……1

２　京の「地蔵盆」……3

３　「地蔵盆」はいま……9

（平成 25 年度京都市「地蔵盆」に関するアンケート調査結果概要）

選定にあたって

毎年８月中旬から下旬にかけて行われる伝統的な民俗行事である「地蔵盆」。地蔵信仰という宗教的な性格を持ちながらも，町内安全や子どもの健全育成を願う町内の行事として，時代とともに変化しながら受け継がれ，地域コミュニティの活性化に重要な役割を果たしてきた「地蔵盆」は，京都をはじめ近畿地方で盛んに行われている。

火災や飢饉，疫病の流行等が頻繁に起こり，自らの生活を守るために地域の助け合いが極めて重要であった近世において，お地蔵さんの祠（ほこら）やその周辺に見られる「町内安全」の文字が物語るように，地域の住民に安心と連帯感を与えてくれる存在としてお地蔵さんは祀（まつ）られてきた。

江戸時代になって，人口が増加し，市街地の拡大とともに，町を単位とした住民自治が広がっていく中，お地蔵さんを祀る行事「地蔵祭（まつり）」「地蔵会（え）」（明治以降，盆行事の一つとして「地蔵盆」と呼ばれるようになった。）は，町内の主要行事の一つとなった。

しかし，明治初期における廃仏毀釈（はいぶつきしゃく）の動きに伴い，路傍にあるお地蔵さんの撤去が進められた。これにより，市内の多くのお地蔵さんが撤去されたが，明治の中期以降に土中などから掘り起こされ，「地蔵盆」は復活することとなった。また，昭和の高度経済成長期には，新たに建設された新興住宅地やマンションにおいて，地域の行事として「地蔵盆」が積極的に取り入れられ，住民同士のつながりを深める役割を担った。

以降，「地蔵盆」は，子どもたちにとって夏休みの最後を飾る行事となり，お地蔵さんを飾り付け，お供えをして祀り，その前で子どもたちが集まり遊ぶというスタイルが一般的となった。また，子どもだけでなく，大人も積極的に参加することで，世代を越えた交流の場となり，さらに，「地蔵盆」の開催に向け，町内の住民が力を合わせ，話し合いながら準備することは，町内の連携や協力体制を強めることとなった。

このように，町内の住民同士が顔を合わせ，子どもを見守りながら，交流を図る機会となっている「地蔵盆」は，近年において，新しく住民となった方がその町内の住民の方々と交流できる貴重な場としても機能し，地域コミュニティの活性化，そして，安心安全のまちづくりに大いに役立っている。

しかしながら，子どもの減少や職住分離をはじめとする生活様式の変化などにより，行事自体が簡略化・衰退しているところも増えてきている。

こうした現状を踏まえ，世代を越えて京都のまちに脈々と受け継がれてきた民俗行事であり，町内の年中行事となっている「地蔵盆」の果たしてきた役割を再認識し，時代の変化に対応しながら引き継がれるよう，「京の地蔵盆－地域と世代をつなぐまちの伝統行事」を“京都をつなぐ無形文化遺産”に選定する。

京の「地蔵盆」　～行事内容など～

「地蔵盆」で行われる行事内容は地域によって様々ですが，多くの町内で行われている（行われていた）行事内容を踏まえ，一般的な「地蔵盆」の内容についてまとめてみました。

京の夏の風物詩「地蔵盆」

平成２５年度に京都市が実施した「地蔵盆」に関するアンケート調査（結果概要は９ページ以降参照）によると，同年に「地蔵盆」（「大日盆」などの盆行事も含む。）を実施した町内は回答全体の約８割となっている。８月後半，まちのあちらこちらで見かける「地蔵盆」は京の夏の風物詩となっている。

＜開催日＞

「地蔵盆」は，地蔵菩薩（じぞうぼさつ）の縁日である旧暦７月２４日前後，もしくは，新暦８月２４日前後のほか，最近では，参加する人たちの都合に合わせ，多少日程をずらして土日に行うところが多い。また，天道大日如来（てんどうだいにちにょらい）を祀っている町内では，大日如来の縁日である旧暦７月２８日前後，もしくは，新暦８月２８日前後に「大日盆」を行うところもあるが，それらも「地蔵盆」として行うところが多い。

様々な行事を盛り込み，２日間やそれ以上の日程で行われる町内もあるが，子どもが少なくなったことや大人の都合がつきにくくなったことから，最近では一日で終わるところが多い。

＜開催場所＞

お地蔵さんを祀った祠の前が比較的多い。その他，個人宅や駐車場などの空き地，道路上，集会所，公園などで実施されている。

＜運営主体＞

町内会或いは町内の子供会などが運営主体となって，町内単位に行われることがほとんどである。運営の担い手は大人が中心であるが，鉦や太鼓などで行事の開始を知らせる役割など，子どもも「地蔵盆」の運営に参画することで，

世代間の交流が図られている。

また，最近では，「地蔵盆」を開催できない地域の住民のために，学区の自治会館などで「地蔵盆」を開催し，参加してもらうといった取組もある。

町内で協力して行う「地蔵盆」

＜お地蔵さんのお化粧など＞

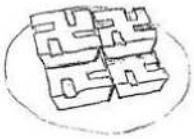
「地蔵盆」が近づくと，町内の人たちは，お地蔵さんを祠から出して，新たに彩色する「お化粧」を行い，新しい前掛けを着せる。

お地蔵さんが祀られていない町内は，寺院から借りるか，或いは，仏画を使用するかなどしていることが多い。

＜供物などの飾り付け＞

町内の人たちからお供えを集め，お地蔵さんを祀る祭壇に花や供物，お札（地蔵幡（じぞうばた））などを飾り付ける。火を灯した提灯（ちょうちん）に似ているところからホオズキをお飾りの花として使うことが多い。

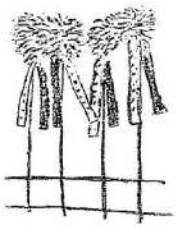
供物としては，紅白の餅や落雁（らくがん）（白雪糕（はくせんこう））といったお菓子，果物，精進物のお膳などが供えられる。



＜会場まわり＞

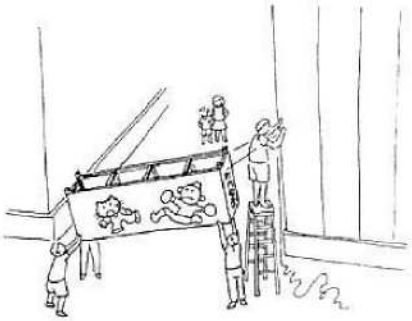
会場まわりは灯籠（とうろう）や行燈（あんどん），提灯などで飾られる。

子どもが生まれると，健やかな成長を願ってその子の名前を書いた提灯が作られ，その子が「地蔵盆」に参加している間，毎年飾られる。また，青竹ののぼりを立てるところもある。



灯籠や行燈にローソクを立て，夜の明かりを楽しむこともある。また，「地蔵盆」の会場の入口に吊るす大きな行燈もある。

行燈の絵を子どもたちが描くなど，大人だけでなく，子どもも「地蔵盆」の準備に参加することにより，世代間の交流が図られている。

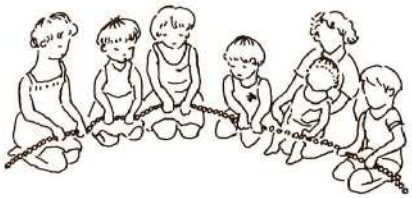


なお，最近では見られなくなったが，陶磁器や糸などの日用品を使って人形などをつくり，情景をしつらえる「作り物」もある。

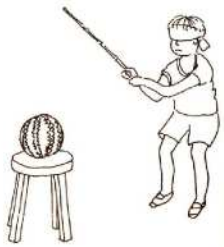
世代を越えて交流を図る「地蔵盆」

＜数珠まわしなどの伝統行事＞

「地蔵盆」は，僧侶による読経や法話で始まるところが多い。町内によっては，子どもたちが直径２～３メートルの大きな数珠を囲んで座り，大人もその輪に加わりながら僧侶の読経に合わせて順々に回す「数珠まわし」（百万遍念仏の一種で,「数珠繰り」ともいう。）が行われる。



こうした伝統的な行事だけでなく，お菓子の配布や手料理の振舞い，ゲーム大会，スイカ割りなど，子どもを主体とした様々な行事が行われる。



＜お菓子配り＞

子どもたちが喜ぶお菓子配りは，ほとんどの「地蔵盆」で行われている。そこに集まり，学年の違いを越えて隣近所の友達と一緒に遊んだ子どもの頃の経験は,「地蔵盆」の楽しい記憶として，大人になっても残り続けるものである。

＜手料理の振舞い＞

お菓子配りのほか，昼食或いは夕食として町内の世話役による手料理が振る舞われることもある。また，屋台が設けられるところもある。

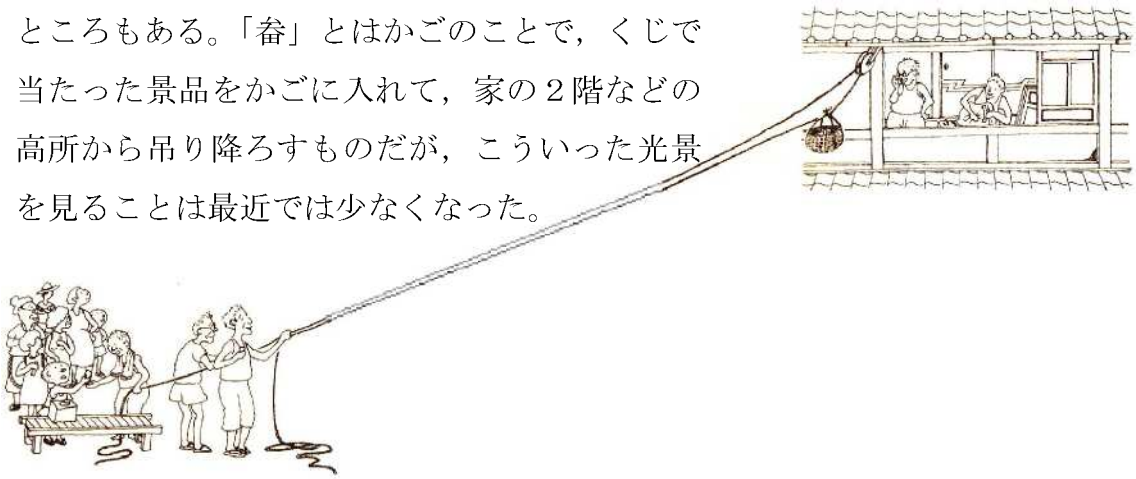
＜遊びのイベント＞

ゲーム大会など子ども向けの行事がプログラムに並ぶ。夜になると花火大会や盆踊り，映画会などが行われるところもある。また，大人だけの交流の場がもたれるところもあり，町内における貴重なコミュニケーションの機会ともなっている。

＜福引＞

子どもにとって最大の楽しみである福引は，主にプログラムの終盤に行われる。

「畚（ふご）おろし」といった昔ながらの形式で行うところもある。「畚」とはかごのことで，くじで当たった景品をかごに入れて，家の２階などの高所から吊り降ろすものだが，こういった光景を見ることは最近では少なくなった。



＜供物のお下がり＞

お菓子などの供物は，お下がりとして子どもたちに配布される。夏の終わりに体力を消耗した子どもたちの栄養を補給しようと落雁を配ったとも言われている。

町内を見守るお地蔵さん

「地蔵盆」が終わると，祠から移動させたお地蔵さんは元の場所に戻る。

町内の住民は，日頃から感謝の気持ちを込め，お地蔵さんの前で手を合わせ，祠を綺麗に掃除し，新しい花を活ける。大都市でありながら，まちの辻々で見かけるこうした光景は京都ならではのものである。

地域コミュニティの活性化に「地蔵盆」が重要な役割を果たしていることから，最近では，地域住民が主体となって「地蔵盆」についての調査・研究※が進められています。

※　ふるさとの良さを活かしたまちづくりを進める会（山科区・平成 24・25 年度），
上京区成逸住民福祉協議会（上京区成逸学区・平成 25 年度）　など

「地蔵盆」はいま

（平成 25 年度京都市「地蔵盆」に関するアンケート調査結果概要）

“京都をつなぐ無形文化遺産”「地蔵盆」の選定に当たり，京都市内における実施状況を把握するため実施した「地蔵盆」に関するアンケート調査の概要を掲載する。

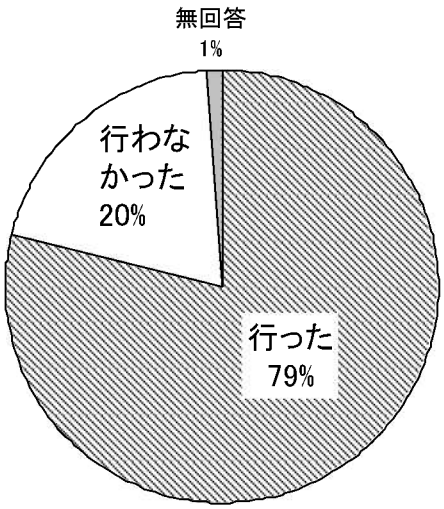
＜調査の概要＞

・調査対象	自治会長・町内会長など
・調査方法	書面によるアンケート調査（郵送回収）
・調査期間	平成 25 年 9 月上旬～12 月末
・調査対象数（配布数）	6,627 件
・回収状況	有効回収数 3,684（有効回収率 56%）

＜調査結果の概要＞

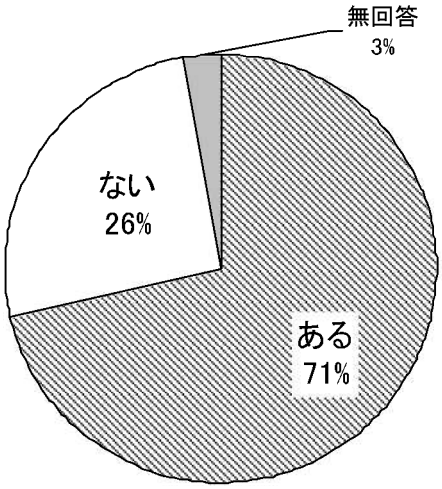
「地蔵盆」の開催状況

平成 25 年度に「地蔵盆」を行った自治会・町内会は回答全体の 79%となっている。



お地蔵さんの有無

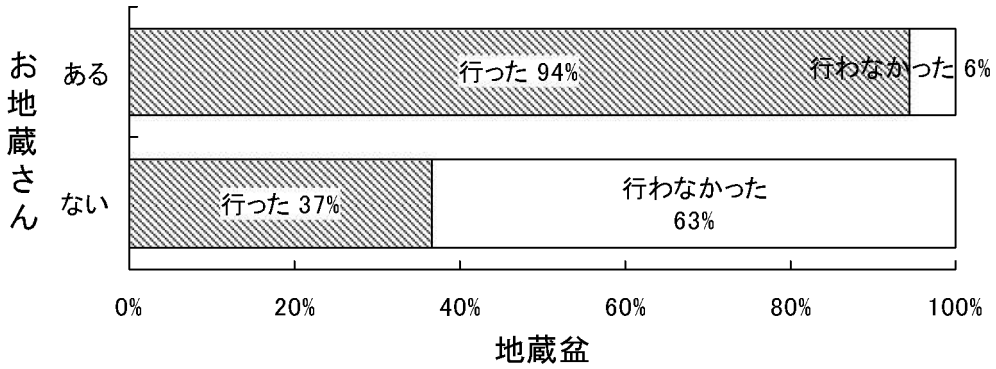
お地蔵さんを祀っている自治会・町内会は，回答全体の 71%となっている。



お地蔵さん有無別の「地蔵盆」開催状況

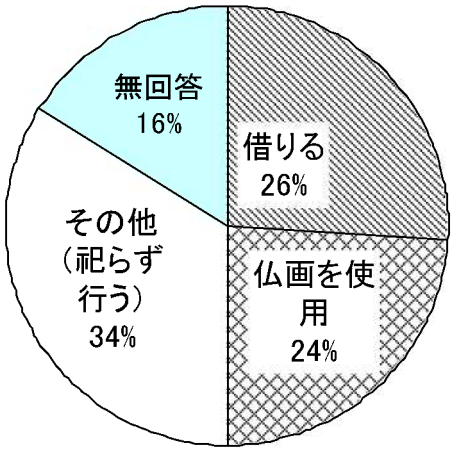
お地蔵さんを祀っている自治会・町内会では，ほとんどが地蔵盆を行っている（94%）。

お地蔵さんを祀っていない自治会・町内会で「地蔵盆」を行ったところは 37%となっている。



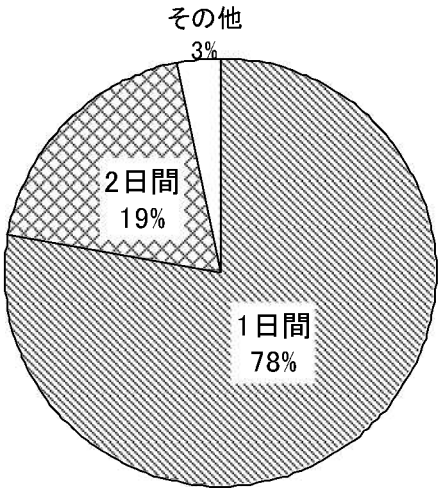
お地蔵さんを祀っていない場合

お地蔵さんを祀っていなくても「地蔵盆」を行ったところでは,「お地蔵さんを借りてくる」が 26%,「仏画を使用する」が 24%,「その他（祀らず行う)」が 34%となっている。



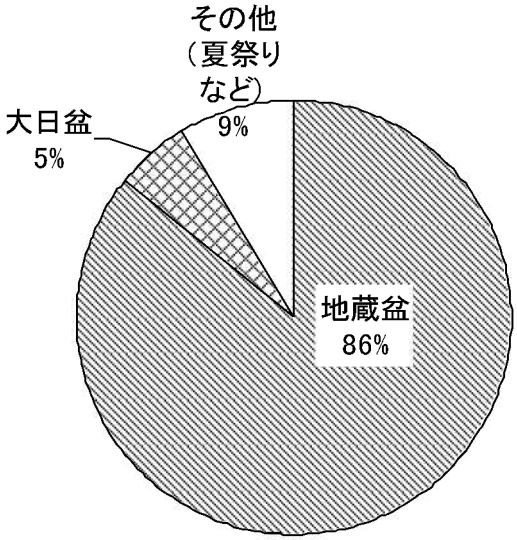
開催日数

「1 日間」が 78%を占め,「2 日間」は 19%となっている。



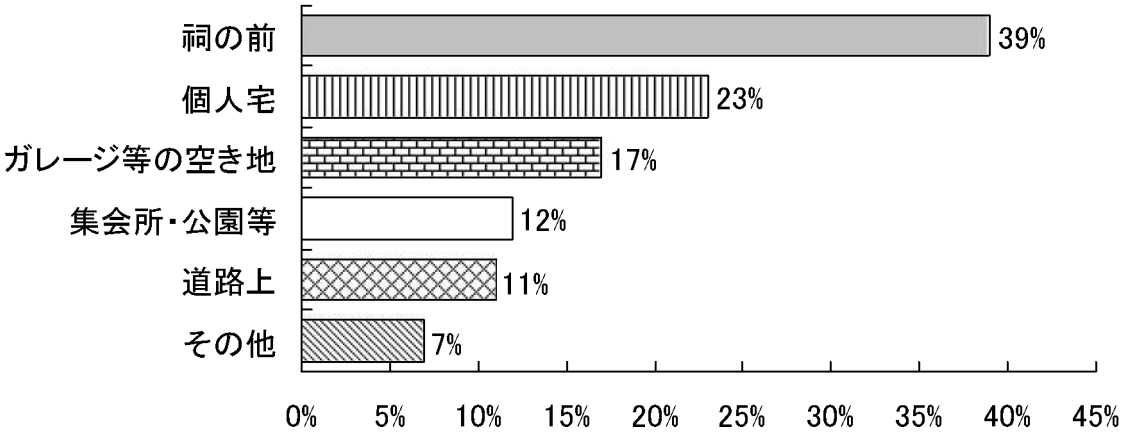
行事の名称

行事の名称は，ほとんどが「地蔵盆」であったが，「大日盆」も5%ある。



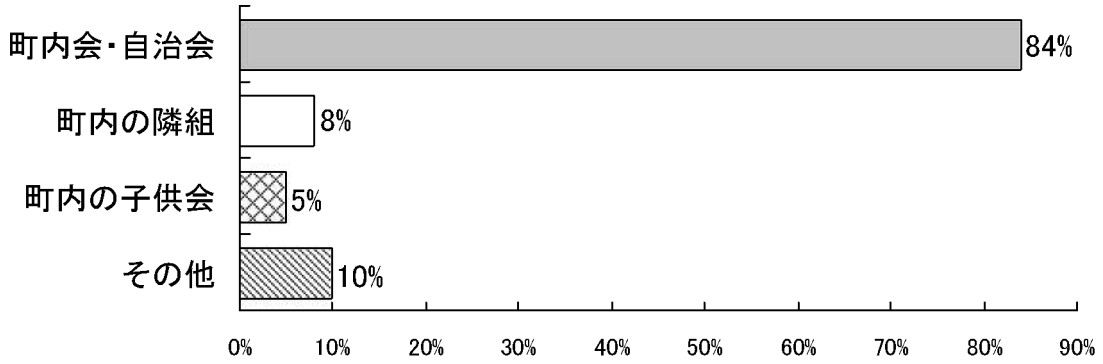
「地蔵盆」の開催場所

「祠の前」が最も多く（39%），「個人宅」（23%），「ガレージ等の空き地」（17%），「集会所・公園等」（12%），「道路上」（11%）となっている（複数回答）。



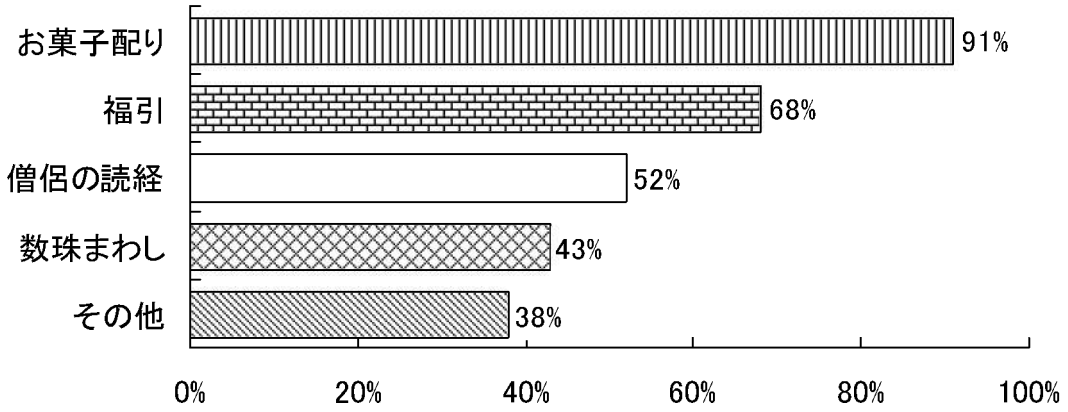
「地蔵盆」の運営主体

「自治会・町内会」が 84%を占める（複数回答）。



行事プログラム

お地蔵さんの飾り付けやお供えのほか，「地蔵盆」のプログラムで最も多かったのは「お菓子配り」（91%）で，続いて，「福引」（68%）となっている（複数回答）。



資料３

今後の予定について

１　京都市長への答申について

日　時　平成２６年１１月１９日（水）午前１０時～午前１０時３０分

場　所　京都市役所本庁舎３階　第一応接室

審査会委員の皆様の御出席をお願いします。

２　京都をつなぐ無形文化遺産テレビコマーシャル

日　時	平成２６年１１月１２日（水）	午後４時	～	午後４時５８分
（予　定）	２４日（月）	午後６時１５分	～	午後７時
	２６日（水）	午後４時	～	午後４時５８分

放送局　テレビ朝日

３　市民しんぶん１２月１日号

京都をつなぐ無形文化遺産「京の地蔵盆」の選定

４　冊子「京の地蔵盆」の発行

発行時期　平成２７年３月（予定）

参考資料

第２回“京都をつなぐ無形文化遺産”「地蔵盆」摘録

日　時：平成26年８月１日（金）午後３時00分～午後５時00分
場　所：壬生寺　会議室

１．開　会
２．挨　拶
北村部長：49 年ぶりに後祭が復興した祇園祭は 7 月の１か月間かけて行われ，早いもので今日から 8 月。今日は，前回選定“京都をつなぐ無形文化遺産”「花街」とも関係が深い八朔の日であり，各花街で芸妓・舞妓さんがお茶屋や芸事の師匠宅へ挨拶に回る日だ。また，今週末からは，平成 22 年に始まった新たな行事「京の七夕」が始まる。それが終わると，いよいよお盆を迎えて五山の送り火，そして地蔵盆と，京都の夏の伝統行事の季節を迎える。

さて，第１回審議会（5 月 30 日）後の２か月間，先生方のご意見をいただきながら選定案を作成し，先日，庁内の最高幹部の会議の議事にかけた。通常は難しい会議だが，この議題ばかりは市長も副市長も昔を思い出して郷愁溢れるものとなった。改めて，この選定の重要性を再認識している。

本日の第２回審議会は，事務局から提案する選定案についてご審議いただきたい。そのあと市議会に報告し，市民のみなさんからパブリックコメントとしてご意見をいただき，いよいよ選定へ，という流れになる大きな節目の会議になる。限られた時間だが，忌憚ないご意見をお願いしたい。

３．資料説明（事務局）
○“京都をつなぐ無形文化遺産”「京の地蔵盆」～地域と世代をつなぐまちの伝統行事～選定案について
（略）
第４号の選定候補は全くの白紙であるため，今回選定案パブコメと併せて実施する予定。
選定後は，選定内容を市民の方々に知っていただくため，地蔵盆の紹介冊子を作る予定である。

４．議事
（用語の使い方）
柿野委員長：選定案について，どんなことでもよいのでご意見があればどうぞ。
林委員：　選定に当たって，定義や用語の使い方について要望がある。地蔵盆といいながら，お地蔵さんがなかったり，お地蔵さんを中心に夏の行事を行いながら，地蔵盆とはいわない（単なる夏祭り）ところがあるが，「地蔵盆」を広義に捉え，それらも含めて扱っていただきたい。

そして，当のお地蔵さんについてだが，京都府もいま同時に地蔵盆に関する調査をしており，「地蔵」「お地蔵様」という名称を使っている場合があるが，そんなによそよそしいものではない。やはり，選定案のように「お地蔵さん」がよい。

ところで，選定案には「数珠回し」と書いてあるが，念仏を唱えながら「繰る」ことが大事なのだから，ほんとうは「数珠繰り」ではないか。同時に，例えば前掛け・よだれ掛けにしてもいろいろな言い方があるから，市民に身近な行事だからこそ，用語には注意した方がよいと思う。

山路委員：今回の選定は，古くからある伝統行事が対象だ。それがないところは代わりの新しい行事が広がっていくことは構わないが，あくまでも伝統行事を核とすべきだし，その伝統行事のやり方が本来どうであったか，という点については筋を通す必要がある。

ところで，選定案の「地域と世代をつなぐまちの伝統行事」という副題だが，「地域」という言葉に少し引っかかる。私は，京都の町を念頭において考えてしまうので，京都周辺の近郷農村の地蔵盆のありようは，町の伝統行事のありようとは少し違う。だから違和感があるが，現代のことを考えると，両方に共通する用語として「地域」でいいのかなとも思っている。

なお，「お地蔵さんのない」「お地蔵さんのいない」は，お地蔵さんに対してちょっと失礼だから，「お地蔵さんが祀られていない」とすべきだろう。この 2 点が，言葉の上では気になるところ。

さて，この選定が出発点であるのはよく分かるが，では，その先はどういう方向に向かうのか。夏の終わりの子供会的な行事を地蔵盆に置き換えていくのか，あるいは，昔からの伝統行事としての地蔵盆を，こういうものだと知らせて実施の指針に（もちろん，再現もしくは復元せよ，とは言わないが）するといった方向なのか。それが見えない。

もしそういう伝統的な形を基準にするのであれば，もう少し具体的な冊子を作って，指針にするのがよい。

もちろん，「夏の終わりの子供会」も一つのあり方であるし，「地域と世代をつなぐ」に合致するからいいけれど。

宗田委員：前回は欠席のため，議事録を読ませていただいた。地蔵盆に関しては，特に京都をつなぐということに大きな意味がある。廃仏毀釈以降，そして戦後以降の地域コミュニティの活性化のために積極的に取り入れられるという，数ある伝統文化・伝統行事の中でも，社会学的にみて特異な継承のされ方をしている。先年，京都市が地域コミュニティ活性化推進条例を制定したこともあって，この側面が非常に重視されているようだ。そのことを支持するゆえに，この選定を支持する市民も多いと思う。「地域」という用語は，いろいろ特殊な意味に使われる（都市計画では「都市と地域」というように，都市に相対するものとして「地域」を使うし，また，自治連合会や社会福祉協議会のような実体のある組織のことを「地域」という場合もある）が，副題の「地域をつなぐ」は「地域社会」の意味だろう。

そうはいっても，今回の選定では地域政策的な観点と，伝統文化を保持する考え方の 2 つが並行しているから，ところどころで指すものが微妙に変わるように思う。これはこれで一つの完成形でよいが，ただ，そのあたりの意図は明確にした方がよい。

その上で，これから具体的にはどういう対策を打つか。これだけテーマを広げると，逆にいろんなことができる。

柿野委員長：京都市民にとってぴったりくる言葉があればいい。これから議論する中で出てくるかもしれない。

（選定は地蔵盆だけでよいのか）

山路委員：町のお地蔵さんは，位置づけとしてはそれぞれの町の結界（木戸）に当たる。村であれば，村境や峠。前回お地蔵さんの位置づけと地蔵盆の経緯を述べたが，「地域と世代をつなぐ町の伝統行事」となると，地蔵盆だけでなく，それと一対になっている「お火焚き」も重要だ。昭和 40 年ごろまでは，子どもたちが中心となって年 2 回行事があった。現在，お火焚きは非常に少なくなってしまい，お稲荷さんの行事のようになってしまった。「地域と世代をつなぐ町の伝統行事」を地蔵盆で代表させるのはいいが，将来的にはお火焚きもなんとかしたほうがよい。

柿野委員長：うちは町内ではやらず，小学校の運動場でやっていた。

宗田委員：歴史的にみればそうだろうが，京都の中で地蔵盆は，積極的にコミュニティを形成しようというときにありがたい存在だったし，2014 年の現在，京都では 80%の町が地蔵盆をやっているということに意味を込めようとしているわけだ。東京でも，郊外の団地であれば小さな社を分祀してもらって，小さな御輿でお祭りをやるという例はあるが，京都の地蔵盆の 80%は，かなり特殊だ。（お火焚きと扱いは違うのではないか。）

（お地蔵さんの解説の必要性）

髙向委員：お地蔵さんに対して親近感は持っているが，この審議会やふるさとの会に参加して，改めてよく分かっていないことを思い知る。選定案では，お地蔵さん自体にも触れた方がよいのではないか。あるいは記載すると，伝統文化というよりは宗教になってしまうのだろうか。

山路委員：宗教にはならないが…。お地蔵さんの解説が必要な時代になったということか。

宗田委員：地蔵盆というとお菓子をもらえる，という意識は大きい。

柿野委員長：地蔵盆では昔から，かならず願い事を書いた提灯を下げた。

山路委員：昔は，子どもが生まれると，名前を書いた提灯を下げたり，即興の地口行燈を出した。時代によって変わってきている。必ずしも伝統にとらわれる必要はないが，伝統的ありようをもう一度復活させるところがあってもいいと思う。

宗田委員：例えば，数珠回しをやる町とやらない町が出てくる。それは，数珠回しを担っていた世代がいなくなり，次代の世話役が，数珠はどこへやったか分からない，とか，お寺さんを呼ぶかどうするか，となって，省略しようかとなる。20 歳くらいの年の差があると，地域で個人が受け継ぐ伝統文化の部分がごっそり抜けてしまい，その次の代になるとお地蔵さんのこともよう説明できなくなる。子どもたちは，町のお地蔵さんと日本昔話に出てくるお地蔵さんの実体があまりに違うから，同じものと理解できなかったりする。伝統の変質がある。京都市はどこまで戻すつもりなのか。変質に任せるのか，パンフレットを作って情報を提供し，町の選択に任せるのか。そこは議論した方がよい。

髙木委員：自分は，お地蔵さんと地蔵盆に関する記憶があまりなく，本があれば子どもに教えるときに参考になる。歴史を伝えることは大事だと改めて思う。

太田委員：京都の地蔵盆とはなんなのか。これまで選定されてきた「京の食文化」「花街」とは違い，地蔵盆の研究は始まったばかりといっていいぐらいだ。山科のお地蔵さんは街道筋に多いらしいとか，数珠回し・数珠繰りという言い方も，滋賀県では数珠繰りが多く，京都市内では数珠回しが多い，といったことを考えると，基本的には都市部のものなのだろう。地蔵講が地蔵祭りになり，地蔵盆と言われるようになった明治以降の考え方と，その根底にある，おそらく京都には遅れてはいってきた地蔵信仰，地獄が恐いという浄土の教え，末法の教え，比叡山横川（よかわ）のお地蔵さん，太秦広隆寺の虚空蔵さんといったことが絡み，賽の神と愛宕山の勝軍地蔵が重なってくる。京都には，お地蔵さん，お火焚きのほかに，十三参り（虚空蔵菩薩）の伝統もある。これらが習合してわけがわからない状況だ。

だから，①宗教というよりは信仰・祈り，②まちの祭り，③他府県とはかなり様相が違う，この３つがポイントだろう。そうであれば，コミュニティをケアする重要な装置としての研究のスタートと考えてよいと思う。壬生寺のお地蔵さん貸出帳の数字を見るだけで，市街エリアの広がりが分かる。町のものが田園部に進出していく過程が，市域における地蔵盆の発展の過程といえる。その中にさまざまな要素がたくさんある。滋賀県ではかぼちゃ，さつまいも，きゅうりといった盂蘭盆会のお施餓鬼用の食べ物がお供えになって下がっているが，京都では白

雪糕（白雪羹）だったりする。時代ごとにエリアごとに少しずつ違う要素を分析して，本にしたらおもしろいだろう。

（選定によりさらに研究を進めたい）

山路委員：「京の盆行事」が国の選択無形民俗文化財（通称）に指定された（昭和 52 年）ときに私が中心になって出した調査報告書でも，代表的な地蔵盆について触れているが，そういった調査の積み重ねが重要だ。

太田委員：オーラルヒストリーをためまくる必要がある。

宗田委員：選定を，伝統文化の保存継承としてやる，地域政策的にやるというアプローチがあるが，もう一つ重要なことがある。各町内，各主体ごとに伝承があって，例えば，このお地蔵さんは三条通から掘り出したもの，さらに遡ると，先代のおじいさんが廃仏毀釈のときに埋めたものらしい，そういう話を地域ごとに伝承することがコミュニティを維持する上で重要な愛着につながったりするのだ。それは，選定案のどこかに書いておくほうがよい。

北村部長：この制度は，選定が目的ではないし，行政が主導的に何をどうこうすべき，というものではない。私は個人的に，お地蔵さんと地蔵盆地図を完成させたいとは考えているが，そういった行政が行う調査も，各町内で地蔵盆の良さを見つめ直すことにつながり，地域の活性化にもつながるのではないかと思う。

（規制緩和）

太田委員:なにか行事をしようとすると保健所と消防署が邪魔をする。共同調理はこれでなくなったし，火を使う行事もだ。特区にして，この一晩だけは自由にやってもいい，ぐらいのことを市がいえば，他府県への波及力を持つだろう。

宗田委員：火を使う行事の締め出しと言われたが，都市計画の立場からいうと，京都市消防局はすごく頑張っていて火災発生件数を抑えている。特区はよいが，建築基準法の３条条例で町家が対象となっている。これを外すとなると，別の方法で安全を担保しなければならない。食中毒は私の専門ではないが，規制を外すと，なにか事故が起こったときに大丈夫かと心配になる。

太田委員：枠にはめられて，宮座では共同調理，共同飲食が重要な要素なのに，それができない。

山路委員：一番は，道路が使えないということから始まる。

宗田委員：車を止めても人命が失われることはないので，警察はわりあい柔軟に対応してくれる。府警ができる前から地蔵盆はやっている，といえば聞いてくれる。

太田委員：そうそう。他府県に比べると，町内は自由に交通規制している。

宗田委員：京都府警はいかにも京都らしくてそれはいいが，木造住宅密集地を抱える京都市消防局は火に関しては譲らない。

太田委員：まちなかは，炭を使えない茶室だらけ。和ろうそくが使えない。火のゆれが表現できない。

山路委員：時代的に，ろうそくが LED になるのはしょうがない。

宗田委員：火の使い方が下手になっているのは事実だ。伝統の祭りには一種のトレーニングがいる。

太田委員：お火焚きは，町内で火の扱いを教えていた。そういう積み重ねてきた伝統文化の知恵が分からなくなってきているのが悲しい。そして，子どもが寝静まってからの大人の宴会で，年に一度かもしれないが話をすることがコミュニティのケアとして重要なのだ。

山路委員：地域共同体を復活させたいというのが選定の大きな目的なのだろう。奥田委員のところは山科のなんという町なのか？

奥田委員：西野山です。

山路委員：それはかつて西野山村といっていたところだ。戦後の開発の中でどんどん人が住むようになったところ。京都のえらいところは，地番の前に旧村の名前が残っていることで，それによって旧村の範囲がちゃんと分かる。

宗田委員：選定案２ページ「このように，町内の住民同士が顔を合わせ，交流を図る機会となっている「地蔵盆」は…」のところで，「(顔を合わせ，）子どもを見守りながら（交流を図る)」の文言を入れた方がよい。例えば数珠回しをするときに，よその子をだっこし，体温を感じる。地域の大人が，子どもを認識して，一緒に育てる（成長を見守る）ことにつながるのだ。

（その他）

三宅委員：些細なことだが，お地蔵さんっていくつぐらいなのか。

宗田委員：それぞれ彫師が想定して作っている。

柿野委員長：子どもを亡くした家や，子どもを連れて旅をする旅先でその子を亡くした場合は，子どもに似せた石仏を作り供養したというから，そういうときの地蔵は子どもを形作っていると思うが，いわゆる地のお地蔵さんはいろいろだ。

松浦委員：お釈迦さんはインドで 2500 年前に修行されて悟りを開かれて，それから仏教として東へと伝わった。いまでも，上座部仏教と称して，お釈迦さまの時代の戒律を守っている宗派がスリランカ，ミャンマー，タイといった国にある。そして，大乗仏教と称して，朝鮮半島から日本に伝わり，日本で各宗各派に分かれた。お釈迦さんの教えの「過去にいろいろ悟りを開いた仏さんがいる。みなさんもその仏さんにすがれば救ってもらえますよ」という中に，地蔵菩薩がある。「菩薩」なので「仏」「如来」に達するまでの地位におられ，頭はお坊さんと同じ形，着衣も一般の人と同じで，庶民大衆の中にいつでもおられて弱者（子どもやお年寄りなど）を救ってくださる。その教えがあるから，形については作った人が自分の願いを表している。昔は子どもが 1，2 歳でよく夭折したから，特によだれ掛けを掛けるというのは，親が賽の河原で鬼に苛まれているか分からない子どものために，このにおいを賽の河原で見つけてください，救ってください，という願いでよだれ掛けを掛ける，と言われている。

太田委員：白雪糕（白雪羹）は，店に木型が一つしかないから，職人一人で作っていたのだと思う。中にねき餡（水飴）を入れている。うちの菓子屋では，最盛期には年間 4,000 個ほど作っていたが，それでも市内では少ないほうだろう。いまは，この伝統菓子を残すためにほしいという町に無料で作って配っている。

山路委員：行事菓子はおもしろい。食については“京都をつなぐ無形文化遺産”第１号でやってしまったけれど。

太田委員：神に供えるものを「しとび」というが，米を一晩水につけて，柔らかくなったものを固めて蒸せば餅，発酵すると酒で，それを供えることが神と人をつなぐ約束事だった。おもしろいのは，日蓮宗ではおはぎ，曹洞宗は梅干しを家で作るという習わしで，はっきりしたことは分からないが，氏子，氏宮の限られたエリアだけに伝わる行事食があったりする。

宗田委員：いったん失われた，かくれていたものが，復活するきっかけになることが選定の大きな意味の一つだろう。

（伝統文化として伝える仕組みが重要）

神谷委員：私は，もともと京都の風物詩として地蔵盆を撮っていたが，阪神淡路大震災がきっかけで自分の住んでいる近辺を意識しなければ，と思うようになり，絵になる地蔵盆だけでなく，地蔵盆を片っ端から取材するようになった（2000-2010 年)。北区，上京区，左京区あたりだ。伝

統云々ということは専門外なので分からないが，お地蔵さんの前での人間模様を撮りたかった。現場では不思議がられるから，「お地蔵さんを撮らせて」と言って撮らせてもらっていた。

いまは，子どもが減って，地蔵盆が成り立たないところがある。今年は普通にやっているところでも，来年は無理だというので詳しく聞いてみると，子どもが2人になってしまうからだという。1人はサッカーか少年野球のクラブが忙しくて参加できず，もう1人の家は，たった1人のためだけにやっていただくのは気が引ける，と辞退される。ある町内では，世代が代わって若いお母さんが世話役になり，張り切ってやろうとしたが，ことごとく否定されてやる気を失った，とか。地蔵盆は町の縮図だと思うので，これからも調査を続けてもらいたい。もしかすると，文化財保護課というより，景観まちづくりセンターの仕事ではないだろうか。

宗田委員：まちづくりとは少し違うと思う。例えば，祇園祭は10年後も30年後も，伝統文化として伝えられていく仕組みが残っている。しかし，地蔵盆はそういう仕組みをどう作るんだ，という議論をすべきなのだ。子どもの数はまだまだ減っていく。細かい話をすると，私学へ行くなどして地域の小学校に通わない子どもが増えて，小学校が地域のつながりの単位にならなくなっている。地蔵盆を地域をつなぐための手段として使う，という政策的な観点がある一方で，地域がどうやって地蔵盆という伝統文化を受け継いでいくか，という文化財保護課的な観点が重要なのだ。10年後20年後の予測をしながら，どういう施策が必要になるかを考えること。壬生寺，教育委員会の力を借りるとか。

太田委員：私は，幼稚園，小学校は私学へ通っていたのだが，夏休みの宿題は「地蔵盆に出て，そのことを書いてきなさい」というものだった。キリスト教の学校なのに，それを勧めたのはやはり宗教ではなく信仰の対象だからであり，先生が素晴らしかった。私学協会に，地域の行事に参加しなければ合格させへんからな，と圧力をかけるといったことはすぐにできる。京都は小学校の学区単位でできた町なのに，これだけ私学の小学校が増えると地蔵盆衰退につながる。

北村部長：前回，髙木委員は「新旧の住民をつなぐ」と言われたが，私学通学など異なる環境の子を地域につなぐという意味もあるだろう。

柿野委員長：いまの子どもたちは外で遊ばないからこそ，こういう交流の機会が大事だ。

宗田委員：いまは，農村部の子どもより都会の子どもの方が交流が密だったりする。農村のお母さんは農作業をせずにパートに行くし，あまりお母さん同士で交流がないが，都会のほうが近所づきあいが密で，子ども社会も，そんな親社会を反映して随分変わってきている。

柿野委員長：防災という言葉が出てくるが，唐突な気がする。いい案を思いつかないが，例えば，安心安全とか言い換えたほうがよい。昔は悪いことをすれば隣のおっちゃんに叱られたもので，町内のタテ，ヨコ，ナナメのつながりは大事だ。

山路委員：我々の世代に課せられるのは，古くからの社会共同体のよい点を新しい時代にどうよみがえらせるかを，いろいろな方法で考える必要があるということだ。その視点に立って地蔵盆のあり方を模索する，という方向に持って行く。選定案はこれでよいと思うが，いろいろな選択肢をつけるために，いろいろな例を挙げたらよい。

柿野委員長：今日の議論をベースに，事務局で選定案を整理し，委員にはEmailでお送りするのでお気づきの点があればお知らせいただきたい。その後，パブリックコメントということになる。

事務局：活発にご意見をいただきありがとうございました。先生方には，またお諮りするのでよろしくお願いする。8月末にパブコメにより，市民意見を募集し，9月下旬にはとりまとめをするので，3回めの審査会でご議論をいただきたい。

（了）